

## 音楽を愛する全ての世代に贈る、歌と喝采と苦闘の物語！

黒澤明監督の『生きる』（1952年）で主演・志村喬が歌った『 Gondola の唄 』、『カチューシャの唄』、『カチューシャの唄』、日本映画初のタイアップ主題歌『東京行進曲』、盆踊りの定番曲で、東京ヤクルトスワローズ や J1・FC東京の応援ソングとしても知られる『東京音頭』、子どもからシニアまで口ずさみ、フランスの幼稚園でも歌われる『シャボン玉』や『てるてる坊主』……。

明治に生まれ、大正・昭和を生き、今も歌い継がれ、童謡、歌謡曲、音頭、民謡まで幅広いジャンルの約2000曲を残した作曲家・中山晋平（1887～1952）。その生涯を、彼の音楽とともに綴っていく。

晋平役は映画初主演となる歌舞伎俳優・中村橋之助。18歳から亡くなる65歳までを見事に演じきった。

『シャボン玉』などの作詞家、野口雨情役は三浦貴大。『東京行進曲』や『東京音頭』の作詞家・西條八十役は渡辺大。晋平の面倒を見る劇作家・島村抱月役は緒形直人。『東京行進曲』の歌い手で、晋平、雨情と“全国歌の旅”に出る歌手の佐藤千代子役は歌手としても活躍する真由子。奇しくも、名優を親に持つ二世俳優たちが物語を彩る。

音楽を担当したのは、北野武監督の『その男、凶暴につき』の久米大作。晋平の気持ちに寄り添い、ドラマチックに盛り上げる。心躍るオープニング『東京音頭』、『Gondola の唄』誕生の瞬間を表現したピアノと笛による楽曲は聴きどころの一つだ。中山の全12曲はすべて新録音。エンディング・テーマ『Gondola の唄』は、俳優の上條恒彦が11年ぶりにレコーディングを行った。

企画・プロデュースの新田博邦は音楽、映画作品を数多く手掛け、近年では鈴木紗理奈主演の『キセキの葉書』（2017年）、ベストセラー絵本を映画化した『ばあばは、だいじょうぶ』（2019年）、高橋長英、柳澤慎一主演の『兄消える』（2018年）を送り出している。「『ボヘミアン・ラブソディ』『グリーンブック』など音楽伝記映画は世界的なブームになっているが、独自の音楽を残した中山晋平の人生を世界に通じる音楽映画にしたかった」と語る。

監督は『ハチ公物語』『遠き落日』の名匠・神山征二郎。23年9月から24年4月まで、中山晋平ゆかりの長野県内（上田市、長野市、須坂市、松本市、中野市、佐久市など）をロケし、明治、大正、昭和の東京、長野を再現。四季折々の自然、雄大な山々も切り取っている。

音楽とともに激動の時代を生きた稀代の作曲家、メロディは今もなお……  
新たな地平を切り開く、  
日本発の音楽映画がここに誕生！



## Story

信州に生まれ育った中山晋平（中村橋之助）は、少年時代に見た旅楽団のジンタに魅せられ、音楽の道に進むことを夢見る。18歳の時に、早稲田大学教授・島村抱月（緒形直人）の書生になる機会を得て、上京。書生の仕事をしながら苦学を重ね、3年後、難関「東京音楽学校」に入学する。

借金を重ねながらも卒業した晋平は、抱月の劇団「芸術座」の劇中歌『カチューシャの唄』を作曲することに。看板女優・松井須磨子（吉本実憂）が歌った曲は演劇と共に大ヒットし、女手ひとつで育ててくれた母ぞう（土屋貴子）を安心させることができた。

しかし、母が突然、病で倒れてしまう。故郷へ急ぐが、死に目に会えなかった。悲しみに暮れる中、母への思いを込め、二曲目の劇中歌『Gondola の唄』を生み出す……。

製作代表：永山勝利

製作：太田哲郎 倉石和明 宗次徳二 中澤創太 小名木義孝  
小林喜代美 小堀完治

特別協力：中澤きみ子 中澤宗幸 / 戸塚亮一

## 2026年・第2回常陸大宮名画鑑賞会

※チラシ(広告)持参で一般当日券 1,300円に割引

2026年 5月24日(日) 常陸大宮文化センターロゼホール・小ホール (常陸大宮市中富町3135-6)

◆【上映時間】① 午前10時30分～ ② 午後2時～ ③ 午後6時30分～【開場各30分前・上映時間127分・字幕付】

◆【鑑賞料金】前売券 1,200円 (当日券/一般: 1,500円、小・中・高生: 800円、障がい者: 1,200円)

◆【前売券取扱所】ロゼホール・おぐらや(上町)・やまぶんオフィスパートナー(大宮駅前)

・御前山饅頭ひやま(野口)・デジタルチケット

※デジタルチケットは、右記の  
二次元コードで購入できます

◆「はばたき友の会招待券」をご利用いただけます。

◆上映協力◆ 大宮よい映画をひろめる会、おおみや平和の会、新日本婦人の会常陸大宮支部

◆主催・予約先◆ 茨城映画センター ☎ 029-226-3156 (土・日を除く10:00～17:00迄)

